

地方紙の愉しみ

近藤 瑞穂

東京大学情報学環附属社会情報研究資料センターには、平成30年1月現在、30道府県35タイトルの地方紙が日々届き、それらを2年間保存しています。大学図書館でこれだけ多種の地方紙を所蔵しているところは珍しく、公共の図書館に範囲を広げてみても、首都圏では東京都立中央図書館、さいたま市立中央図書館、横浜市立中央図書館など数館です。

ところで一口に地方紙といっても、それぞれ特色があり、その道府県の実情を反映した紙面構成となっているのが興味深いところです。今回は、そんな地方紙を日々目している職員の目から見た、＜地方紙の愉しみ＞について語りたいと思います。

・刊行スタイルについて

インターネットが普及し、電子情報が飛び交う世の中となった現在、地方紙でもWeb版を充実させる傾向にはありますが、だからといって紙面の記事をそのままWeb版で読むことが出来る訳ではありません。概して、記事の冒頭部分のみが書かれてあり、「続きは○○新聞紙面でご覧下さい」というもの、もしくは「続きは会員限定紙面になります」とあってログインを求めるもの（有料・無料どちらもあり）のどちらが多いです。ただしWeb版でも記事をほぼ遜色なく読める新聞もあります。「河北新報」（宮城県）や「徳島新聞」などは主要記事であれば、全文をWeb版で読むことができます。これは全国紙ではあまり例がないかもしれません。

また朝夕刊発行の新聞でも、夕刊を休刊し朝刊に統合する傾向にあり、最近では「岐阜新聞」が夕刊を平成29年9月末で休刊しています。その一方で、従来型の夕刊ではなく、全く新しいものとして発行するスタイルに変えたところもあります。「新潟日報」は上質な紙を使って「Otona + おとなプラス」というタブロイド判で発行しており、「中国新聞」（広島県）では「中国新聞 Select」という別建ての発行となっています。

・道府県のニーズを反映した紙面

大きな出来事・事件が起きた場合は全国紙と紙面構成はほぼ同じになりますが、基本的には地域の事情を紙面に反映させています。米どころの県で作柄状況や収穫された米の価格が重要なニュースとなるのと同じく、「十勝毎日新聞」（北海道）では麦やビートといった、地域で栽培・収穫されている作物の生育状況や価格が1面で大きく取り上げられます。また「福島民報」では人事異動の時期になると、公的機関（県庁や公立学校等）の幹部人事情報が1面に顔写真付きで掲載されます。

・1面の読みもの

「熊本日日新聞」「徳島新聞」「京都新聞」などは日曜日の1面に識者による論説を掲載しています。また、「南日本新聞」（鹿児島県）「愛媛新聞」「秋田魁新報」では県にゆかりのある人物によるコラムを掲載しています。1面に限った話ではありませんが、読みもの的な記事を掲載するのは地方紙の場合日曜日、もしくは月曜日が多いようです。

・地元色あふれる記事

地方紙ならではの読者との距離の近さを感じられるものとして、県内に住む人を顔写真付きで取り上げ、その人となりを簡単に紹介する記事があります。例えば「東奥日報」（青森県）夕刊1面の「県民カレンダー」、「河北新報」夕刊1面の「気軽にトーク」などです。これらは老若男女を問わずに毎日掲載されますが、前者に関してはより年齢層が幅広く、小学生や就学前の児童が紹介されることもあります。

また「北國新聞」（石川）では金曜日・土曜日の夕刊1面に、過去同じ日にどんな出来事があったかを振り返る「ニュースあのととき」という記事を載せています。これは記事の企画としては特段珍しいものではないですが、石川県内の出来事に特化し、また当時の写真を掲載しているので雰囲気も非常によく伝わり、石川県に関わりがなくても非常に興味深く読むことができます。

・分かりやすい紙面づくり

最近では紙面構成が一目で分かるように、1面部分で主要記事をインデックス化している新聞が主流ですが、「新潟日報」では昨年11月から、インデックス化した記事に「喜」「怒」「哀」「楽」といった遊び心あふれるマークを付けて、それぞれどういった内容の記事なのか分かりやすくする仕掛けをしています。

また、最近の人名は読みが難しく、やや当て字のような読み方をする場合も多くなっている中、「下野新聞」（栃木県）は人名に関して、平易な読み方の場合も含めて全てにフリガナをふっており、非常に読みやすくなっています。

・元日発行分について

地方紙の場合、元日の紙面は全国紙以上に、本紙以外に別刷りが複数部加わるため、場合によっては紙面の総ページ数が100ページを超えます。例えば今年の「十勝毎日新聞」は、別刷りが第10部まであり、総ページ数も182ページでした。また「岡谷市民新聞」（長野県）の大みそかの紙面では「紙数が多いので、段ボール箱など大きめの受け箱に、『正月の新聞入れ』の紙を張り付けて玄関先にご用意ください。」とイラスト入りで告知していました。

元日の別刷りの内容については、テレビ欄特集やスポーツ特集など全国紙同様のものから、地域経済の特集、各市町村の特集、「紙上名刺交換会」と称して地場企業のトップを紹介する特集もあります。例えば「熊本日日新聞」の「熊日プレジデント倶楽部」や「中国新聞」の「中国 LEADERS 倶楽部」という別刷りなどです。

元日の紙面は、全国紙との違いはもちろん、地域毎でも違いが顕著なため、愛媛新聞社のように全国の地方紙の元

日紙面を一堂に集めて展示するイベントを行っているところもあります。

このように、全国紙とは一味違った特色が地方紙にはあります。今まで縁の無かった方も、当資料センターへ気軽に足を運んでいただき、その世界をのぞいて自分なりの＜愉しみ＞を見つけてみてはいかがでしょうか。

(近藤瑞穂 東京大学情報学環附属
社会情報研究資料センター)

セ ン タ ー 情 報

■社会情報研究資料センター長

平成 29 年度 石 崎 雅 人 (情報学環)

■社会情報研究資料センター運営委員会

平成 29 年度委員

石 川 徹 (委員長 情報学環)

板 倉 聖 哲 (情報学環)

鶴 田 啓 (情報学環)

河 井 大 介 (情報学環)

■事業報告

・デジタル・カルチュラル・ヘリテージ

(以下 DCH) のベータ版公開

当センターのデジタルアーカイブ・システムである
DCH ベータ版を公開

・空調機整備 (書庫 2 階)

・除湿機整備 (書庫 1, 2 階)

・カビ拭き取り作業実施

新館地下 1 階書庫保管の新聞インデックス類合計
400 冊につき実施し 1 階へ移動。

・空調機防カビ塗装実施 (開架・展示室・地下 1 階書庫)

・「労力新聞」デジタル化を実施

劣化が進んでいる「労力新聞」のデジタル化を実施。
今後当センターのデジタルコンテンツのひとつとして DCH にて公開予定。

・「アーカイブスタジオ利用規定」の整備

情報学環 7 階アーカイブスタジオのデジタル化機材を学内向けに広く活用頂くため、利用規定を整備。

東京大学大学院情報学環
社会情報研究資料センターニュース
第 28 号

発行日 2018. 3. 26 発行
編集・発行 東京大学大学院情報学環
東京都文京区本郷 7-3-1 TEL 03-5841-5905
tosyo@iii.u-tokyo.ac.jp
http://www.center.iii.u-tokyo.ac.jp
印刷 株式会社 創志企画
東京都新宿区山吹町 81 番地 TEL 03-3267-5503